

「生きる力を育む教育」地域住民対象研修会アンケート

本日の講話について、感想をお聞かせください。

- ・自分の感情を知り、コントロールするのは大人でも難しいと感じた。
- ・オープンエンドの問いは、自分も常に意識していたところなのでとても参考になった。
- ・子育てのみならず、大人にも使える話だった。
- ・このような感情教育を受け続けた子どもは、どのように育つのだろうかとても興味がある。また、小学生の中学年くらいになった時にもチェックインで自分の状態を素直に示すのは難しくなるかなと思ったが、相手に示せないことがあっても自分の中で自分を見つめられたら意味のあることだなと気づいた。
- ・プロセスをほめるオープンエンドクエスチョンなど日々の生活の中で自分に照らし合わせるとなるほどと感じることが多くあり、とても重要なことだと感じた。今社会で起きている様々な事件事故などもこういった人間の心に大きく影響を受けているのではないかと思った。
- ・研修の内容から学べることは理解できたと思うが、だから地域の人はどうのように子どもたちと関わって良いかが見つけにくいと思った。はっきりと地域の活動の中で子どもたちとこういう感じで付き合いこういうことを大切にしながら関わっていくと地域の活動に関心を持ち、地域を好きな人につながるなどを加えてもらえると分かってもらえると思った。
- ・生きていく中で大切なこと、改めて考えさせられた。
- ・自分の日常を見つめ直すヒントになった。
- ・基本的事項(読み・書き・そろばんのような)はおろそかにしたくないと思った。
- ・これからの子育てにつながる話を聞くことができ、とても参考になりました。発達障害をかかえた子を育てているので、多重知能理論の話聞き、得意な事を見つけて伸ばしてあげられるような関わりをもっていこうと思った。
- ・もう少し具体的な実践例を聞きたかった。
- ・チェックイン以外はあまり説明がなかった。
- ・小学校ではどんなことをやっいていこうとしているのか説明があったのかなかったのか十分理解できなかった。
- ・少し抽象的な話が多いように感じました。個人的に子供というよりは教員の質の低下が大きい気がしています。
- ・持続可能な街づくりを教育委員会、市、住民が一体となって推進していこうという点が素晴らしいと思いました。特に、教育委員会と市民の接点がなかなかない(問題が発生した時)と思うので、こんな先進的なデモクラティックな取り組みに関わり、事例を紹介くださり、イメージが一転しました。今後も持続されると思うので、また改めて、知見や事例の蓄積を学ばせていただければと思います。このような取り組みが全国津々浦々にぜひ広がって欲しいです。

- ・生きる力を身につけることの重要性は日々感じてきた。子どもたちとのコミュニケーションの取り方の難しさを感じていたが、今回の講話を聞いて、子どもとの関わり方がイメージしやすくなった。子どもの得意・不得意に気付き、保育につなげていきたい。
- ・多重知能理論は子どもたちの自己肯定感を上げるにも有効だと思った。
- ・親と子どものコミュニケーションが大事だと感じた。
- ・良き時代の理解者に会えた気がして嬉しかった。
- ・毎回、先生のお話を聞くとほっとさせられ、自分の振り返りの時間になる。自分の子育ての仕方が間違っていない！とも思える。
- ・つい苦手な面に目を向け、苦手な事が改善されるように関わってしまう事が多かったが、得意なことを伸ばしていくことで他の苦手な部分が伸びてくることを気づかされ大きな学びになった。
- ・得意・不得意があってもできることをどんどん伸ばしてあげようということ、わかってはいるがなかなかできない自分がいる。
- ・核家族で子ども(孫)と接することが少ない生活環境にあり、どのように接していったらよいか悩むことが多くなっている。研修を通し、子どもの目線で話を引き出していくことの大切さがわかった。
- ・孫の成長を見ながらモヤモヤしていたが、なぜかわかったような気がした。どんな接し方が良いのか、もっと自信をもってふれあっていこうと思う。
- ・難しい問題が多すぎる。どこからどうすれば良くなっていくのか。
- ・SELについてよく理解できた。感情教育はとても良いと思う。自分の気持ちを表す力が大切だということが分かった。子どもには自分の強みを生かして育ててほしいが、今の学校生活は勉強力ばかりなので、強みをのばす社会になってほしい。
- ・今の子どもたちの現状などを振り返ると納得できる部分があった。子どもたちにどのようにかかわるか、声をかけるか、悩ましく思った。子どもたちが健全にたくましく社会で生活し、生きていけるようになってほしいと思った。
- ・先生のお話は昔自分がおじいさんからよく言われたような気がします。今の保護者の人たちは、ゆとり教育で考え方が変わったのでしょうか。
- ・「生きる力を育む教育」について、お話を聞いて今の教育の「学力」だけでなく、子どもたちが楽しく通学できるようになってくれればと思いました。
- ・生きる力を育む教育という言葉はよく目にするし耳にしていますが、今日の講話をお聞きしました、あつみ地区の現在取り組んでいることを聞いて少し理解することができました。地域の人に関わって体験することの大切さを痛感、見守りしながらどんどん声掛け増やしていきたいと思います。我々大人があつみの自然の良さをこれからも実感しながら過ごしていきたいと思います。ずっと続けてほしいです。

- ・研修会前のあいさつの中で温海地区毎年 200 人ずつ減少しているとの説明にショックを受けた。
- ・子供達に接する仕方を勉強したいと思います。子供達が朝・昼・夕方と変化するということになるほどと思った。
- ・時代の変遷により、教育環境や家庭環境も変わってきています。それにより親世代の物の見方、考え方も違っていると感じます。子供達だけでなく親世代の生きる力も育むような機会が必要かなと感じます。
- ・内孫は高 1、高 2 で保育園からの教育が大切だと感じました。昔からの事は何かと話しています。
- ・「生きる力を育む」には小さい頃からの教育をリピートする事によって脳の働きが培われる事を学びました。良いと思う事をリピートする事は大切ですね。
- ・時代の移り変わりによって家庭の子供のしつけも言葉づかいも考えて言わなければならないと学びました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・子供の主体性を育むポイントを再確認したような気がする。
- ・私たちの時代の社会教育はどこに位置付けられているのかな
- ・現代の保育・教育の難しさを感じた。三森先生に期待しています。
- ・幼い頃からいたわることや相手の気持ちに気づく訓練の重要性、コミュニケーション力をつけること。多重知能のお話はすごく良かった。子供をよく観察すること。本当です。結論は「学ぶ力」「生きる力」必要です。
- ・今の子供達は自分が一番大切に思っていると思う。それは、大人、親の考え方から来るのかなと思う。子供はもっと子供らしくのびのびと育っていいと思う。今日の講話で再認識しました。
- ・現在の教育に対して小さい子供達が大変よい影響が与えられると思います。数年後のいじめの少ない学校生活が送れればと思います。
- ・地域に子どもがいない。移住者は高齢者。家庭環境も見直さないとダメ。子どもの主体性がそがれている。小学校の教頭が代わって、前任者のような関りができなくなった。あつみ小学校の教育者の再教育が必要。お試し住宅もあるが、大体移住にはつながらない。
- ・少子化により、子どもがいないのが現状であるし色々難しい。そして危険な世の中ではあるが、先生の「昔と同じ様に子供に関わってほしい。そこから子供達が人々との関りや考えることを学ぶ」という教えに共感した。実践していきたい。
- ・文部省から「生きる力」の言葉が出た時、たくさんの学校でその研修が行われたように思います。まだ、学校だけの取り組みでしたので、視野や考え方がせまかったのだろうと感じるところがあります。常に学校も家庭も地域も共に教育と叫ばれていますが、どんな形で関わっていけばよいのかと考えさせられます。保育園児から長いスパンで見ていく(教育する)ということはもちろん大切だし、町全体を育むことにつながるかもと思います。